



JEG ニュースレター 158号

www.jegschweiz.com

2016年11月29日発行

小さな証

それは、キリスト者の集いの準備作業に超多忙の7月下旬の旧友からの電話に始まりました。 P2

教職者会議

今年も南ドイツのモーンバッハタールで欧州教職者会議が開催されました。 P3

“日本CGNTV”

スイスJEGのマイヤー牧師のメッセージが日本CGNTVによってみ言葉セミナーとして放映が開始されました。 p3

宣教師特集

日本と日本人を愛して日本で福音を伝える宣教師からの活動レポートをお届けします。 P4-P6

小さな祈り

愛するひとり子イエス様を私の罪を取り除き、永遠の命を与えるためにお捧げくださった主よ、その愛を、少しでも隣人に与えられるよう助けてください。あなたが包んで下さったその愛で。



私たちは、私たちに対する神の愛を知り。また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。 第1ヨハネ 4：16



ちいさな証

Wie gut der Herr plant und organisiert

Heidi Matsubayashi

JAPANISCHE EVANGELISCHE GEMEINDE SCHWEIZ



Harre des Herrn! Sei getrost und unverzagt und harre des Herrn!
Psalm 27, 14

Als wir Anfang des Jahres realisierten, dass wir immer mehr Aufgaben im Raum Zürich übernehmen würden, brachten wir unser Anliegen betreffend unsere Wohnsituation vor Gott, da wir uns nicht vorstellen konnten, wie dies in der bestehenden Situation während den Wintermonaten möglich sein sollte. Da Koji voll mit den Vorbereitungen der Konferenz beschäftigt war und ich ihn so gut wie möglich entlasten wollte, indem ich Arbeiten, die er normalerweise verrichtete, übernahm, rückte dieser Wunsch in den Hintergrund.

Aber der Herr hat es nicht vergessen und kurz vor der Konferenz erhielten wir eine Anfrage von langjährigen Freunden, ob wir uns vorstellen könnten, in das kleine Appenzeller Haus, wo ihr Vater bis vor kurzem wohnte (er ist inzwischen im Pflegeheim), umzuziehen. Uns war von Anfang an klar, dass dies Gottes Antwort auf unsere Bitte war. Es gab schon noch einige Stolpersteine zu überwinden und auch die Räumung des alten Hauses benötigte viel Energie und Zeit, aber immer wieder erlebten wir die Hilfe des Herrn, indem er Probleme aus dem Weg räumte, uns Freunde zur Seite stellte und uns durch sein Wort ermutigte.

Wir sind dem Herrn von Herzen dankbar, dass er für uns diesen Umzug in ein kleineres Haus mit weniger Umschwung und gut zugänglich noch vor Wintereinbruch ermöglicht hat. Die Räume sind beheizbar, sodass wir nach dem dreitägigen Einsatz bei unserer Tochter, Natalia, deren kleinen Sohn wir ab Dezember betreuen, nicht in ein eiskaltes Haus zurückkehren müssen. Ich muss auch nicht mehr drei Stunden bevor wir am Morgen früh wegfahren, aufstehen, um den Kachelofen und den Herd anzufeuern oder mir Gedanken machen, ob wir bei starkem Schneefall wieder zu unserem Haus hinauffahren können.



思い出の詰まった27年間の暮らしに別れを告げる。Adieu Obertobel!

Einmal mehr durften wir erleben, wie gut der Herr plant und organisiert, und zwar alles zur richtigen Zeit.



主の計画とオーガナイズの素晴らしさ

松林ハイディ

スイス日本語福音キリスト教会会員

待ち望め。主を。雄々しくあれ。心を強くせよ。

詩篇27、14

今年の初め、チューリッヒ州において益々増えるであろう私たちの家族に関する様々な責務（91歳になる母の世話や孫たちの子守など、）を前にして、私たちは夏場を除いてすこぶる困難をとまなう居住環境（私たちが30年近く住む、建てて300年経つ殆ど改造されていない薪暖房に依存する旧く大きな農家）に関して神様の前にこの課題を持っていくことにしました。なぜなら、特に冬場における幾多の障害（厳しい寒さ、降雪、薪暖房の難しさ）をどうやって乗り越えていっていいか人智では解決がつかなかったからです。夫（コージ）は夏に開催されるヨーロッパ・キリスト者の集いの準備作業に多忙を極めていたので、少しでも負担を軽くするよう彼がしていた力のいる家事を私がしている間に、この”願い”はいつのまにか背後に隠れてしまいました。



25年前に夫が描いた鉛筆画。1672年に建てたこの家に住むことになるのは夢にも思いませんでした。

しかし、主はこの事を忘れておられませんでした。キリスト者の集いの始まる少し前、母教会の長年の友人から、彼女の94歳になる父親がこの間まで住んでいた小さなアッペンツェラーハウス（この地方独自の木造民家）に、父親が老人ホームに入居したので、移り住む気はないかとの電話がありました。私たちにとっては、これは最初から私たちの祈りへの神さまの応答である事に疑いはありませんでした。しかし目の前には乗り越えるべき障害物が幾つも横たわっていました。これまで住んだ古い大きな農家の片付けには膨大な時間とエネルギーを必要としましたが、主の助けを度々経験しました。主は諸問題を脇に追いやり、喜びを備えられ、みことばによって私たちに励ましてくれました。



厳しい冬の到来する前に、生活しやすい環境の整った小さな家に引っ越しを可能とくださった主に心から感謝します。家がセントラルヒーティングとなったことで、12月から私たちの末娘の小さな男の子を3日間世話した後、冷蔵庫のようになった家に戻ったり、次女の子供達の子守をするため朝3時間早く起きて薪をくべて暖炉を温める必要や、たくさん降雪があったとき車が家まで登れるかといった心配事は無くなりました。

さらにもう一度、主の計画とオーガナイズはなんと素晴らしいことか、しかも適切な時に全てが完了したことに驚嘆せずにおられませんでした。

1、9月から始まった黙示録からの新シリーズ「頭なる主の教会宛の手紙」は、エペソ・スルミナ、ベルガモ宛の手紙へと回を重ね、ますます興味深くなってきています。スイスJEGでは、毎回のメッセージを録音及び録画して、礼拝に惜しくもお越しになれなかった兄弟や、もう一度含蓄に富む深い内容のメッセージ（日独語）をお聴きになりたい兄弟にご覧いただいています。これらの新シリーズは、スイスJEGのHP www.jegschweiz.com/礼拝メッセージ-audio-video/サイトでビデオにてご覧いただけます。これらのメッセージはYoutubeにアップロードされていますが、4つのメッセージには330を越えるアクセスが記録されて、難解とされ敬遠されがちな黙示録への関心の高さが伺えます。

翌年の2月17日から24日まで予定されているスイスJEG主催の第2回「イスラエル旅行」に先立って、11月28日の主日礼拝メッセージにおいて「イスラエルと教会の選びと使命（ローマ人への手紙9章-11章より）」というテーマで、神がなぜイスラエルを選び、そして異邦人を救いと祝福の対象にされたのか、イスラエルとの深い関係を明らかにされました。この録画もスイスJEGのHPでご覧いただけます。

2、11月13日は「主イエスのアジアにおける教会宛の手紙」シリーズを中断して、今年4月からデピュテーションのためスイスとドイツの支援者や教会を巡回中のリーベンゼラー宣教団のクツ・プリシキラ宣教師をお迎えし、日本での働きを多くの映像を使って紹介していただきました。なお、ニュースレター11月号では、3ページに渡ってスイスJEGとの深い絆をもつ日本各地の宣教師の活動レポートが掲載されていますので、お読みください。



3、日本語での世界宣教のため2006年に設立された日本CGNTVによってマイヤー牧師の「み国を待ち望む」シリーズの衛星放送（東アジアを中心に）による放映が10月から、「スイス日本語福音キリスト教会のみ言葉セミナー」としていよいよ開始されました。インターネットでも放映が始まりましたので、下のURLをクリックしてご覧いただけます。現在、「実を結ぶ人生」の1回目を放送中です。<http://japan.cgntv.net/detail.php?number=2972&category=1022>

多くの視聴者にアクセスしていただくと番組も継続放送されますので、日独両国語で放送される唯一のセミナーを友人や知人にご紹介ください。また、どうかこの放送が宣教と神さまの計画のために用いられますようお祈りくだされば幸いです。



ヨハナさん歓送会と、お誕生日のお祝い

4、11月12日（金）の午前9時半から13日の正午まで、二日に渡りデューベンドルフにて役員訓練会が行われ、マイヤー牧師とともに、役員（長老）の役割、霊的運営責任についての学びと意見交換、そして将来のスイスJEGのビジョンについて語り合い、祈り合う貴重な機会が与えられました。また、スイスJEGのビジョンとしての南ドイツ福音ネットワークの今後の働きと、マイヤー牧師への支援態勢についても意見が交わされ、具体的な一歩を踏み出しました。

5、10月7日から10日まで、南ドイツ・モーンバッハタールにおいて、今年のヨーロッパ教職者会議が約20名の参加者を得て開催されました。

私はスケジュールの関係で部分参加しかできませんでした。他の教職者たちと共に学びと分かち合いの時間が与えられたことで、本当に励まされました。今回は「ジーザス・コーチング」についての学びでした。イエスが、弟子達と共に時間を過ごし、実際の日常生活の出来事を用いながら弟子達を訓練をしたことに注目しました。レクリエーション、黙想の時間、食事の時間を共に過ごし、前回の教職者会からすでに一年がたったことにビックリしつつも、楽しい時間を過ごす幸いを得られたことに感謝しました。
マイヤー・マルチン



6、トムセン家の次女ヨハナさんは、南ドイツ・シュトゥットガルトから東に49kmのところにある美しい古都アルテンシュタイグに置かれたYMAM(Youth with a mission)で9月から弟子訓練を受けています。来年春の訓練終了後、ヨルダンにて短期宣教の働きをする予定です。ヨハナさんのことを覚えお祈りくだされば幸いです。

7、第33回ヨーロッパ・キリスト者の集いの証/感想文集が印刷され小冊子となって参加各教会に11月中旬一部ずつ郵送されました。この小冊子は残部がありますので、ご希望の方は（郵送料込み10ユーロ）でニュースレター編集部までお申し出ください。また、電子版は集いのオフィシャルHPからダウンロードしてお読みいただけます。<http://www.europetsudoi.net/33回-集い-特約サイト/>



8、オーニング宣教師、クツ・プリシキラ宣教師、ラシェンコ・ペラ宣教師、ローゼンクランツNL、フーサー香織・シモン宣教師からの Rundbrief、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーミア川井勝太郎宣教師の週報、ブリュッセル・ミサ便り、パリ・プロテスタント日本語キリスト教会バルタージュ、イザール通信、夜越山からの便り、ミッション「宣教の声」が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。

日出ずる国から

宣教師編

はじめの一步

札幌からOMF宣教師

フーサー・シモン&香織宣教師から



愛する皆さん、いつも私たちのことを覚え励ましてくださりありがとうございます！

私たちが4月に日本へ渡ってきて、早いものでもう半年以上が経ちました。実家の埼玉での休暇から始

まり、関東でのOMF宣教師との交わり、北海道に渡りOMFフィールドカンファレンスへ参加した後にシンガポールで1か月間の研修、札幌に帰国してからの新生活…。それぞれの時、それぞれの場所で出会いや再会、感謝なことや学ば

ることがありました。また、それらを活かしてのチャレンジがありました。そんな時、いつでも主に期待し、信頼して歩むことの大切さをひしひしと感じさせられました。2016年もまともに差し掛かろうとしている今、皆さんに祈られ支えられながらやっと私たちの生活は落ち着きを見

せ始めています。シモンは語学学習に、私は神学校での学びに日々精一杯を尽くしています。



お互い弱い者同士、新しい環境や学びの中で自分たちの至らなさや限界を感じることもあります。しかしそれ以上に今こうして宣教師として学べる環境にいることを本当に感謝しています。宣教師となり首が座ったくらいで右も左もまだまだ分かりませんが、そんな私たちがこうして歩めるのも皆さんのサポートがあってこそ、と日々感じております。遠く離れていても、神様にあって一つ。皆さんと意思を一つにし、共に日本宣教が出来ることに感謝しつつ、これからも主から与えられた物事に精一杯励んでいきたいと思

日本に何しに来たの？

石川県内灘からOM宣教師

マルティン・フィリップ&祐子宣教師から



私たち夫婦がスイスから国際宣教団体OMの日本支部に来て3年が経ちました。私たちは地域の行事に参加し

たり、近所の人たちと交流したり、教会の同世代の人たちと賛美や学びをしたりと日本での生活を楽しんでいます。

フィリップは通信担当者として、普段は事務所で季刊誌の発行、OM日本のウェブサイトやフェイスブックページの管理、年間報告の作成、祈祷課題の共有、印刷物の作成、情報発信などの仕事をし、祐子は家で機関紙の翻訳をしていますが、7月には夫婦と一緒に短期宣教チームの手伝いをする事ができました。

世界各国から集まった参加者と色々な教会で子どもプログラムなどの奉仕をしました。祐子は通訳者として関わり、参加者と地元の人たちとの会話を訳す機会を楽しみました。海外から短期間来日し、日本語もできず日本文化も知らない外国人に何が出来るのかと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、日本の人たちは「日本に何をしに来たの？」「どうしてクリスチャンになったの？」と興味深々で、参加者の証を日本の人々に伝えるのは大きな喜びです。

ある教会では、自称仏教徒の日本人男性とタイから



来た元仏教徒の参加者の短くも深く、意味のある会話を訳しました。男性は初めはシャイでゲームなどの輪に入りたがらなかったのですが、参加者が自分がよく出張で訪れるタイ出身だということを知り、「あんな仏教大国でクリスチャンになるってことは大変なことだろうに、どうしてその決断をしたのか。」など色々な質問をし始め、打ち解けていきました。慣れない土地で一生涯命福音を伝えようとしている海外からの宣教師たちの姿に日本の教会の人々も励まされています。

期待を持って開拓を

福岡はジーザスコールチャーチ
ローゼンクランツ・クリスチャン&
直美宣教師から



2016年もあと少しで終わろうとしています。愛する皆さん、お元

気でいらっしやいますか？

4月から始まった福岡開拓も、振り返ると、とりあえず神様にすべてを感謝したい！そんな気持ちです。

今のところ、日曜の午前



はコアメンバーの集会、午後からは天神の隣駅でスタジオを時間借りしてメインの集会をしています。また、毎週大学でのバイブルカフェ、土曜には駅前にストリートバンドでいき、出会う人達に福音を伝えたりして、少しずつですが教会に繋がる人達が起こされてきています。

実際この半年間は、たくさんの葛藤がある時でした。人々に福音を伝えて信仰に導くこと、そしてその一人一人がキリストの弟子になっていくこと、またリーダー達が力強く立ち上がっていくこと、集会の場所を見つけること、など、これら一つ一つに力を注いで働く中で、何ともしようのない妨げがやってくることでしょう。「また!」「なんで?」などと思うことも多々あり、なかなか思うように進まないこともあります。葛藤は祈りに変えるしかできません。そして祈りに変えるなら、それは希望に変わります!

今はまだまだ耕地を耕している時。すばらしい収穫を見たら誰もが喜ぶけれど、その後



第1回福岡サマーキャンプ

るには、誰かが耕し、誰かが種を蒔いて、誰かが水をやって、そして神様が成長させてくださる恵みがあってそれはやってくる、ということをおぼされます。収穫することを期待しないで種をまく農夫はいません。だから、私たちが神様への大きな期待をもって蒔き続けます!そして今も、少しずつ、イエス様を信じて輝き始める人、悲しんでいたのに喜びが沸き始める人、そんな人々を見ていたら、その他の問題も吹き飛んでしまうほど、大きな励ましです。

欧州の皆さまが私たちのことを覚えてくださっていることは本当に大きな励ましです。3月にはクリスチャンが2週間スイスに帰省しますので、その時にまたお会いできることを楽しみにしています。

短期宣教師を迎える奉仕

東京はOMF宣教団

ラシェンコ・ベラ宣教師から



今年を振り返ってみますと、OMFのサブジャパンで海外からの大勢の短期宣教師を迎えたことが私にとってエポックメイキングとなりました。22人は個人として、そして10に及ぶチームが来日し、北海道、東北、関東で色々なホストたちに迎えられました。

その若者たちは各地の教会で奉仕をしたり、伝道の活動をしたり、夏のキャンプや英語の教師として奉仕をしたりしました。短期宣教師は帰国する前に私に



ウエルカム JAPAN!

会って、日本で過ごしてきた期間について話し合いました。ハイライトは自分がどのようにしてイエス様に会ったかの証を求道者や未信者に述べ伝えることが出来たこと、ホストとなった教会のメンバーやチームの仲間たちとの主にある親しい交わりがあったこと、日本の文化を発見したことなどがテーマになりました。

反面、言葉の壁の高さ、それに伴う誤解と精神的な疲れが彼らにとって大きなチャレンジになったようです。しかしこのような問題に出会う時にこそ、短期宣



帰国前のミーティング

教師はみ言葉や祈りを通して、主から励ましを受けます。確かに、人は慣れぬ困難な環境の下で生活すると、神様の存在と導きを熱心に求めるものです。

私は来年の五月に帰瑞し、八月末に定年となり現役を退く予定です。私の後任として、ジェヌ・レナンさんが、一月にオーストラリアから来日するでしょう。引き継ぎがスムーズに行きますようにお祈りください。

私は愛する皆さんとの再会を今から楽しみにしています。いつも変わらず忠実に宣教師を祈りを通して応援して下さることに心から感謝して、。

故郷でのデプテーション

リーベンゼラー宣教団

クッツ・プリスキラ宣教師から



今年の春にデプテーションのために帰瑞して以来、実に多くの教会や支援者を訪れ、宣教報告をしてきました。主は、そのひとつひとつを守り祝福してくださいました。感謝です。

11月と12月は、私の故郷のサンクトガレンに



にできることを嬉しく思います。この2ヶ月間は、私の母教会で支援教会であるStadt Mission, FEGで働きます。良き出会いと新しい宣教の友人が与えられますようにお祈りくだされば幸いです。

日本へは来年の春に帰る予定ですが、奉仕先はまだ決まっておられません。みなさまの尊いお祈り、日本における宣教師ならびに私が正しい決断ができますようお祈りくださっていることに感謝して。

2年半は長いのか短いのか?

東京はOMF宣教団

オーニング・マックス

玲子宣教師から



2年半。今年の2月、日本に戻った時点から私たちが定年退職するまでの期間です。

スイス滞在中に、日本に戻った後はゴスペルチャーチ東京を離れること、YouFoをLINKという新しい名前に変え、戦略も数年後の実現を目指していた計画へ進むことになりました。その計画とは、チームメンバーが別々にLINKの働きを理解しサポートしてくれる教会に出席し、LINKの働きの輪を拡げるといふものです。それで、チームメイトのJPはニューホープ東京へ、私たちは新しくパートナー教会を探すことになりました。

まず様々な教会を訪問したり、若い人たちの集いに顔を出したりと、ネットワーク作りを始めました。

社会人クリスチャンを励ます会として始めた「しゃっくり」の仲間。青年伝道に関わっている牧師たち。そして、9月から出席することになったJECA(日本福音キリスト教会連合)の千歳烏山光の子聖書教会の清野(きよの)牧師と教会の皆さん。たくさんの感謝の出会いが与えられています。

教会は決まったものの、その時点で私たちに残された時間は、2年半からあ

という間に後2年になってしまいました。2年でどれくらいのことができるで

しょうか。大きなチャレンジです。時に焦る気持ちも出てきます。でも、このごろ、伝道はリレーのようなものではないかと思われています。一人一人が、神さまが決められた区間を走ってバトンを渡していく。私たちがするべき事は、与えられた道のりを目的を忘れずしっかり走ることで、その距離が長いか短いかは関係がないと思えるようになりました。



しゃっくり合同企画のキャンプ(奥多摩)

どうか、私たちが誠実に走れるように、そして、若い社会人に目を向ける教会がまだまだ少ない中、私たちからLINKのバトンを受け取って走ってくれる仲間が与えられるようにともお祈り下さると感謝です。

皆様の日々の生活全てに、主の祝福が豊かにありますようお祈りします。

してから、今後のことについて具体的に祈り始めました。

私たち家族のヴィジョンは3つあります。まずスイスとドイツの現地の人たちに重荷を持っており、ヨーロッパのキリスト教離れに心を痛めています。もう一度、主イエス様へ戻ってきてほしい。そのために、主の愛で現地の人たちにリーチアウトしていきたいと思っています。



SLIM 2016 南独シュヴァルツヴァルトにて

次にイスラム教徒へ重荷を持っていません。ヨーロッパのイスラム人口増加は著しく、それに加えイスラム圏からの難民問題やテロなども懸念されます。イスラム教徒を「恐怖の対象」にすることもできますが、彼らは自国に留まっていたら、国家をあげてのキリスト教迫害のもとでイエス様の福音を聞くチャンスがありません。イエス様はイスラム教徒をも愛しておられるので、彼らが福音を聞くチャンスがある自由なヨーロッパへ来るのを許される。ですから、積極的にイスラム教徒にリーチアウトしたい。彼らを「愛の対象」として、福音を伝えたいと思います。そして最後に邦人伝道に重荷を持っています。これは同胞の救いを願うがゆえに出てくる自然な思いです。



7月10日に私たちの母教会で私たち家族を支える会を発足してもらいました。この日は、亡くなった父親の誕生日で、彼は生前、僕が宣教師になることに猛反対していました。亡くなる2ヶ月前に洗礼を受け天に召されましたが、最後まで僕が宣教師になることには後向きでした。しかし、父親の誕生日に「偶然」支える会が発足したことに、天国の父も認めてくれたのかなと思いを馳せ、神様の優しさを感じています。

来年3月に神学校を卒業予定で、その後は日本全国をデピュテーションで回る予定です。それと並行して、母教会の奉仕をしながら、同じ教団のインターナショナル教会を手伝うことになりました。すでに週一回の祈り会に参加し、時々礼拝でメッセージをさせていただきます。



福島県裏磐梯の晩秋

2008年ドイツ留学を通して、ヨーロッパ宣教の難しさを痛感したので、「お前には無理だ!」という内の声に説得させられそうになります。しかし「主は、口バを通してさえ話ることができる神様。君は、口バよりはマシだろ?」と友人にからかわれ、御心なら私たち夫婦でさえ主はヨーロッパで用いてくださると信仰を持っています。お祈りに覚えていただけたら幸いです。

欧州の宣教に重荷を持って 栃木県宇都宮市は鞆町キリスト教会の 矢部晶宏神学生から



私は4月にドイツで開催されたSLIMカンファレンスに家族で参加し、ドイツとスイスの友人を訪ね帰国

集いの証集から伝わる恵み

米国はJCFNの
清水摂宣教師から



ハレルヤ! 今回も(今回はスーパーに!!) 盛り沢山の証、重要な情報発信をありがとうございます。

こんなにも詳しく、多くのヨーロッパキリスト者の集いの恵みを、証集

を通していただくことができ本当に感謝です。ユースの祝福された声にも励まされました。本当に多くのユース、キッズが参加され、彼らもちろんですが、奉仕者が本当に深く恵みを受け取られている様子が伝わり、うれしかったです。



また、英独語の同時通訳に加え、今回は英語のセッションまで用意されていたので、国際結婚をされている方達にとって、ただ内容を理解できるということだけでなく、大切にされている、ウェルカムされているということが強く伝わったのではないのでしょうか?

祈りの中で主がスイスJEGに与えてくださったビジョンを、教会で一致して遂行し、参加者がその恵みを受け、チャレンジされ、変えられ、送り出されたことは、それぞれの教会の欧州における主の働きの前進に大きな祝福となったことと思います。本当に恵まれ様でした。(お疲れ様というより、恵まれ様ですね!)

また、この大作の証集・・・証集め、編集、レイアウトにどれだけの時間とエネルギーを注がれたか、想像できません。本当にありがとうございました。豊かな恵みと祝福が主催教会であるスイス日本語福音キリスト教会の上にありますように。

HP: <http://jcfm.org/jcfmhome/index.php?lang=ja>